表彰式

2022年10月22日、立命館大学創思館カンファレンスルームにて表彰式を開催しました。入賞者には、表彰状と、各協賛企業・組織様から副賞（最優秀賞：防災グッズ・地球儀・今治タオル他、優秀賞：防災グッズ・防水機能付腕時計・ウレタン畳他、入選：住宅用火災警報器、防災ポーチ他、佳作：地図帳、瞬足他）および参加賞（文具セットや飲料水他）が贈呈されました。続いて、審査委員から作品紹介と講評を行い、入賞者からは作品のテーマや工夫した点など発表いただきました。表彰式は、入賞者、ご家族、協賛企業・組織様、本学関係者が参加し、和やかな雰囲気の中で終えることができました。

賞状授与

副賞授与

集合写真

応募者の声

- 子供にとっては、知らない大人にインタビューをする事は少し勇気がいる事の様でしたが、親切に教えてくださる方が多く、子供の成長にもつながったと感じております。
- 目的を話すとどこの方も協力的に教えてくれ、人の温かさを感じた。実際に足を運ぶことで、「覚える」ではなく、自然と記憶されるのを感じた。
- （子どもが）街探検のような感じで楽しみながら取り組んでいました。
- 街を探検しながら、発見をした時にはガッツポーズをしながら意欲的に取り組む様子を見ると、机上ではない作業はとても有意義だったと感じています。
- 直接目で見てそれをどのように感じたか実際に体験することは、親子にとってもいい思い出になると思います。
- 普段通る道でも、探究心を持って散策すると、初めての発見が多く、親子共々、とても楽しめました。また、図書館で借りた本を読むだけでは得られなかった知識や体感がとても心地良かったです。

出張授業

「どうやって安全安心マップを作成したらいいの？」という声にお応えするために、歴史都市防災研究所では出張授業を実施しています。2022年度は埼玉県熊谷市問屋町の熊谷流通センター（愛称：ソシオ熊谷）からご依頼を受け、当研究所の研究メンバー（研究所運営委員：村中亮夫［本学准教授］、客員研究員：米島万有子［熊本大学准教授］、谷端郷［北海学園大学講師］、浅妻裕［北海学園大学教授］、大学院生：八巻栞［本学大学院文学研究科地理学専修］）が9月4日に熊谷流通センターで開催された「問屋町祭り2022」において、小学生対象の防災まち歩き企画「てくてく防災さんぽ@問屋町」を実施しました。参加された親子7組・20名（小学生12名、保護者8名）の皆さんは講師を務めた当研究所の研究メンバーと一緒に、『熊谷市防災ハザードマップ』を片手にまちを歩きながら危険・安全箇所や地域の魅力を発見するフィールドワークと、フィールドワークで見聞き・発見した内容を可視化する防災マップ作成活動を楽しく行いました。当日は、身近な地域の危険箇所を考える際のハザードマップの使い方を学ぶとともに、問屋町周辺の自然地理学的な特性を考える機会となりました。

フィールドワークでは
カエルに出会いました

調べたことをうまく整理できました（小学1年生）

先生方からいろいろな
お話を聞きました

お気軽にご相談・お問い合わせください。

安全安心マップ
かんたんマニュアル
もあります！

立命館大学　歴史都市防災研究所　事務局
〒603-8341　京都市北区小松原北町58番地
TEL：075-467-8801 ／ FAX：075-467-8825
E-mailアドレス：rekibou@st.ritsumei.ac.jp
コンテスト特集ページ：https://r-dmuch.jp/project/mapcontest/
開館日／月～金　9時30分～17時00分［土・日・祝および休館日除く］

立命館大学　歴史都市防災研究所では、小学生を対象として地域の安全安心への関心を深めてもらうことを目的に、2007年から「地域の安全安心マップコンテスト」を毎年開催しています。この事業は、小学生、保護者、ご家族、地域住民、教員など子どもと大人が一緒に地域を調べ、マップを作成しながら地域の安全安心を考えてもらえるよう、大学の社会貢献活動の一環として取り組んでおります。今年も多くの方々に支えられて16回目を迎えることができました。この場を借りて心より御礼申し上げます。なお、本紙において第16回の事業内容をご報告させていただきます。皆様の日頃のご活動や今後のマップ作りの一助となれば幸いです。

第16回「みんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト」概要

2022年8月18日から9月28日までの募集期間に、全国から39点（個人26点、グループ13点）の応募があり、総勢64名の小学生に参加いただきました。応募地域は、京都府をはじめ、福島県、宮城県、富山県、東京都、埼玉県、神奈川県、大阪府、広島県、大分県、長崎県、と全国各地に及びました。魅力的な作品が多く、審査にはかなりの時間を要しましたが、11名の審査委員による厳正なる審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞1点、入選3点、佳作5点の入賞作品10点を選出いたしました。今年も、入賞作品のうち7作品を全国児童生徒地図作品展連絡協議会（事務局：国土交通省国土地理院）主催の「第26回全国児童生徒地図優秀作品展」へ推薦し、その結果、本コンテストで最優秀賞に輝いた「ぼくもヒーローになる車いす・ベビーカーたすけマップ」が、「奨励賞」を受賞しました。また、「工事中 広島駅の安心安全マップ」で入選した児童（4年生・広島県広島市）がJR西日本広島駅長から感謝状の贈呈を、「もしも、箕面まつり開催中に緊急事態が起こってしまったら（大地震などの自然災害やケガ・病気など）」で入賞した児童（6年生・大阪府箕面市）が箕面市長から市長表彰を、それぞれ受けました。

主　催：立命館大学歴史都市防災研究所
協　賛：セコム株式会社、Fレンタカー株式会社、株式会社パスコ、NPO法人災害ボランティアステーション日本、株式会社帝国書院、株式会社ネスト・ジャパン、マツモラ産業株式会社、株式会社宝水、株式会社柴橋商会、能美防災株式会社、奥尻島観光協会、株式会社サンオート、ワエストロ株式会社、株式会社アイ・イー・ジェー、やまと産業株式会社、アキレス株式会社、株式会社コバック、株式会社宮田運輸、ヤマハ発動機株式会社、除菌隊（順不同）
後　援：国土地理院、京都新聞、KBS京都、京都市、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター、一般社団法人人文地理学会、立命館地理学会、京都府警察本部、一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構、国土交通省近畿地方整備局（順不同）

最優秀賞　2年生・東京都港区

ぼくもヒーローになる
車いす・ベビーカーたすけマップ

応募者のコメント

足の病気で車椅子に乗った時、街の中には、普通に歩くことはできても、車椅子だと不便で怖い場所が沢山あることに気付きました。そんな時、知らないお兄さんが、急な坂道で車椅子を押して助けてくれました。僕にはそのお兄さんがヒーローに見えました。僕でもヒーローになれる場所はないかと、弟のベビーカーを押して調べてみたら、出来ることが沢山見つかりました。ヒーローが大勢いれば、どんな場所も優しい街になると思います。

講評

車いすやベビーカーを使う人への優しい気持ちや情報の多さが内容から見えてきます。「ヒーローになれる」と呼びかけることで、手助けしてもらう人だけでなく、手助けする人にも役立つマップになっており、地域の人がやさしくなれるマップです。

全国児童生徒地図作品展連絡協議会（事務局：国土地理院）主催「第26回全国児童生徒地図優秀作品展」にて、「奨励賞」を受賞しました。

優秀賞　6年生・大阪府箕面市

もしも、箕面まつり開催中に緊急事態が起こってしまったら
（大地震などの自然災害やケガ・病気など）

応募者のコメント

「祭り」という非日常的な活動中に、自然災害など緊急事態が発生した時のことを考えて作りました。何故このようなことを考えたかというと、私が大阪府北部地震を経験した場所は、いつも避難訓練をしている学校でも家でもなく、登校中の通学路でした。このとき「いつどこで何が起こるかわからない」ということ、知っておくことの大切さを学んだからです。それから今回歩いてみて、誰もが逃げやすい道かどうかも大事だと思いました。

講評

「祭り」といういつもと違う場面を取り上げ、そこにいる方の安全に着目した点がユニークです。多くの情報を丁寧に整理し、わかりやすく表現しているので、お祭りの実行委員会、市役所、自治会など様々な立場の方にも役立つマップです。

箕面市市長表彰を受けました。

入選　6年生・京都府舞鶴市

土砂災害・洪水から身を守る

応募者のコメント

舞鶴市は過去に大雨で由良川が氾濫し大きな災害が発生したと学習していました。でも実際に自分の校区の危険箇所について見直すことはありませんでした。そこで、舞鶴市の二つのハザードマップを透明シートを使って色分けし一目で分かる一つのマップにまとめました。校区をじっくり見て回り、安全な避難の仕方を調べたり、避難場所に備えられているものも見せてもらったりして、自然災害への意識を高めることができました。

講評

災害時の安全のための情報を幅広く集め、わかりやすく整理しています。マップとしての完成度に加え、透明シートを使うなどの工夫によって情報がわかりやすく伝わります。地域の住民の方たちにも防災訓練等で役立ててもらえるマップです。

入選　3年生・富山県富山市

常願寺川の堤防を調べる

応募者のコメント

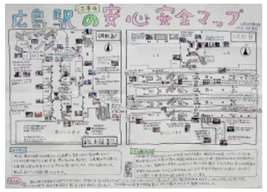
今回僕は自転車で、家の近くを流れる常願寺川の堤防を走破しました。その時見つけた看板や石碑を見て、常願寺川の歴史や堤防について興味を持ち、調べました。常願寺川は昔からあばれ川とよばれ、水害をたくさん起こしてきた川だったことや、かすみ提とよばれる昔の人が考えた堤防のつくりが今も残っていることを知りました。近年、色々な場所で水害が起きていますが、この川が水害対策の参考になればいいなと思いました。

講評

身近な川を取り上げ、川の特性、治水・防災の歴史、かすみ提の仕組みなど現地調査によって得られた情報から文献まで幅広く情報を収集しています。豊富な情報を図上でわかりやすく表現しており、川沿いの地域に住む方たちの安全に役立ててもらえるマップです。

入選　4年生・広島県広島市

工事中　広島駅の安心・安全マップ



応募者のコメント

私は毎日広島駅を利用しています。今建て替え工事をしている広島駅で、もし誰かが急に気分が悪くなったり、火事や自然災害が起きたりしたら、私はどのように動いたら良いのか気になっていました。そこで、安全安心マップを作ってみようと考えました。調べてみると、広島駅には様々な安全設備が至る所に設置されていることに気が付きました。たくさんの人にマップを見てもらい、皆で安心して広島駅を利用できたら良いなと思います。

講評

広島駅という建物に範囲をしぼり、さらに工事中という特別な状況での安全に着目した点がユニークです。地図を立体的に表現し、工事中ならではのリスクと対策を細かく調べています。広島駅の職員の方、駅利用者にも活用してもらいたい作品です。

JR西日本広島駅長より感謝状が贈呈されました。

佳作　3年生・東京都世田谷区

松原小学校の安全マップ

応募者のコメント

学校の授業の「安全マップ」作りがきっかけで、学区域全ての道にある「こどもをまもろう110番」と防犯カメラの場所を知りたいと思い、調べました。110番がある家やお店は111か所、防犯カメラは37か所あり、見通しが悪い道に多くあるのではないかと考えました。犯罪のしにくい地域になるよう地域の人たちが協力し、見守ってくれていることが分かり、調べる前より安心して出かけることができるようになりました。

講評

小校区という広い範囲にもかかわらず、路地など細かな部分まで調査し、きめ細かな情報が盛り込まれています。豊富な情報量ですがレイアウトや色使いを工夫することで、見やすい地図に仕上がっています。ぜひ、全校児童、地域の住民のみなさんに役立ててほしいマップです。

佳作　5年生・広島県広島市

さまざまな災害に役立つ通信手段　公衆電話を探せ!!

応募者のコメント

2025年に太陽フレアと呼ばれる太陽の表面で起こる爆発現象で、携帯電話や電気が数週間に渡ってつかえなくなるかもしれないニュースを見ました。7月にも電波障害で携帯電話が使えなくなり緊急電話にも困った経験から災害に強い公衆電話を見直し、いざという時に迷わず使えるよう地図にしてみることにしました。

講評

公衆電話の設置場所や数だけでなく、車いす利用や撤去の状況も調べており、非常時に多くの方が使えるマップになっています。電話の種類や使い方なども併せて示しており、使い方がわからない人にも役立つ情報になっています。公衆電話を使ったことがない人（若い人や外国人など）にも役立つマップです。

佳作　3・1年生・東京都杉並区

ピーポくんをさがし出せマップ

応募者のコメント

母に「最近、ぶっそうだけど、ピーポ君の場所なんこ知ってる？」と聞かれた。ぼくと弟は、2コしか知らなかった。「学校のみんなも、知らないんじゃないかなぁ」と思い、みんなで楽しく覚えれるように、マップを作ることにした。大変だったのは、ピーポ君を探すことだった。同じ場所を何度も歩きまわって探した。街の人たちや、副校長先生が応援してくれて、元気がでて、やる気になった。やさしいまちの人たちと出会えて、よかった。

講評

ピーポ君がどこにいるのか自分で探し、写真を使っていざというときにもわかりやすい工夫をしています。自分で集めた情報をもとにゲームにしている点にオリジナリティがあります。今回のマップ作りに協力してくれた地域の方たちにもぜひ伝えてほしい情報です。

佳作　3年生・埼玉県川口市

わたしの通学路の交通安全マップ

応募者のコメント

私は学校の授業で自分の住む街について勉強するうちに、より身近な通学路ついても興味が湧き調べました。授業で使った白地図を使って通学路を歩き道路標識を写真で撮ったり、道路の様子を観察しました。一箇所に複数の標識がある所もあり、いつも学校に行く時には気がつかない事が沢山発見できました。標識の意味を調べると注意しないといけない事が沢山分かり、外に出かける時にもっと周りに気をつけないといけないと思いました。

講評

交通標識に特化し、交通標識の数や種類などを詳しく調べ、交通量と併せて考察を加えている点が特徴的です。
学校の児童・先生の登下校、地域の方たちの外出にも役立つマップです。

佳作　3年生・広島県広島市

今一度かくにんマップ

応募者のコメント

この地図は、限定された小さな範囲にはなりますが、私の住んでいる町の安心・安全についての紹介です。学校で習った「こども110番の家」や「AED」がどこにあるのか、自然災害が増えてきている中で、災害時の避難場所など、普段歩いている道を改めて確認しながら調べました。調べるに当たって、私なりの疑問を関係者の方々に、電話や直接うかがって話を聞き、分かった事や発見を色分けして記しました。

講評

多くの人の興味を引くタイトルに工夫がみられます。交通・防災・防犯、AEDなど幅広い安全を対象に、いろんな方に聞いた内容をを色分けなどで工夫してわかりやすくまとめています。地域の方や学校で、改めて地域の安全を確認するため役立ててもらいたいです。